いる。三杯飲めば学問の王道に通じ、一斗飲めば宇宙と合致する。このような気分は下戸には分かるまいという。一言でいうと格が違う。どうせ飲むなら李白と一緒に呑んでみたい。

中国で大学主催の晩餐会に出席した経験がある。中国人は口達者で、演説もうまいが酒も徹底的に飲み盡す。演説が一人終了する度に、リキュール・グラスに満々と注がれたマオタイ酒（アルコール度50%）を一気に呑み干す。宴会が本格的に始まると、人がドンドン集まって来て自己紹介を始める。〆として乾杯することになるが、初対面ではいわゆる「駆けつけ３杯」の習慣がある。これを10名以上の人とやっていると意識が完全に朦朧となる。彼等にとって酒は人間関係を構築していくための重要な手段となっている。グテングテンに酔っぱらわないと信用できないという、昔日本にもあった風習に思いかけず出合って懐かしかった。

大学に入学して何を間違ったか、医学部というよりラグビー部に入部したため、65歳の定年退職に至るまで大学に籍を置く羽目になった。この間も遊び呆けていたので、40年間がアーッという間に過ぎ去ってしまった。夢から醒めて浮き世に放り出されてみると、目減りした年金だけでは生活できず、食いぶちを探さなければならないことに気付いた。南は西表島から北は北海道まで探し回った結果、十勝に落ち着いた。まず空港が気に入った。十勝帯広空港に降り立つと、だだっ広い農場と牧場が見えるだけで何もない。さらに、帯広市内までバスで40分、市外地の大半は農場で、落葉松の防風林、白樺並木、その上にどこまでも広がる大空、まるで外国そのものである。市街地の道路は広く、車も人影も少ない。

十勝特産の畜産物・農産物は、新鮮・美味・廉価と３拍子揃っている。これにワインがあれば言うこと無しである。「北海道に十勝ワインあり」といわれるほど、池田町のワインは全国的に知られているが、正直にいうと小生にとっては今一つなのである。十勝ワイン（赤）には清見、清舞、凋寒・赤、山幸、トカップ・赤などがあるが、基本的にはセイベル改良種およびこの品種と山ブドウの交配種で造られている。これらのワインを長年寝かせると酒体（ボディー）が貧弱になり、薫香（ブーケの香り）も微弱になってしまう。つまり、程良く熟成されないのだ。小生にとってはピノ・ノワール種だけで醸造されたブルゴーニュ・ワインが最も好ましい。北海道でも富良野、余市登町、三笠市達布ではピノ・ノワール種が栽培されていると伝え聞く。ピノ・ノワール種は石灰岩がゴロゴロしているような土地を好む。その地に診療所、ブドウ園、ワイナリーを併設するのが小生の夢である。

北海道医師会サポートセンターのご利用について

◇情報広報部◇

北海道医師会サポートセンターでは、本会提供のメールアドレスに関するご相談だけでなく、パソコン操作やインターネット利用に関する質問対応も承っております。日頃のパソコン利用におけるちょっとした疑問点やトラブル対応の第一相談窓口として、お気軽にご利用ください。

お問い合わせ例

パソコンをMacに変えたら使い方がよくわからない・・ご利用方法をご案内
プロジェクターでパソコンの映像を映したい・・・・・ご利用方法をご案内
光電話ってどうしたら使えるの・・・・・・・・・・・光電話についてご案内、取次ぎも可能
エクセルの使い方がよくわからない・・・・・・・・・一般的な使い方であればご案内可能
サポートに来てほしい・・・・・・・・・・・・・・・駆けつけ業者を手配します（有料となります）

お問い合わせ先：北海道医師会サポートセンター（平日　8:30 ～ 12:00、13:00 ～ 17:30）
○TEL：　011-738-3401　　○E-mail：　support@hokkaido.med.or.jp